

「誰も見捨てない地域社会に」するために

何故、府中市議選に出るのか？



～生まれ育ったまちに恩返し～

稲津氏はこの4年間、厳しい雇用環境や起業の難しさ、「親の介護」と「仕事」の両立の大変さを体験しました。このような中で自らも「地域の方々や友人に励まされ、本当に心が救われた」と語りました。

また、市民相談活動を通じて、今の社会保障制度から取り残されている住民の悲痛な声があることを認識しました。

「悩みを抱えている方々を黙って見過ごせない。誰も見捨てられない地域社会に府中市を変えていきたい」と強く思うように至り、「改めて市議会議員として市民相談を軸に、自分が救われた恩を返していきたい」と決意しました。



～あらゆる差別、偏見をなくしたい～

レッドリボン(左図参照)は HIV/AIDS に対して「偏見を持たず、差別せず、理解し、支援する」ための社会運動の象徴です。国連エイズ合同計画でもシンボルマークとして採用されています。

稲津氏はこれまでも、胸にレッドリボンを着けてきました。「HIV/AIDS 患者のみならず、社会の中にある様々な差別や偏見をなくしていきたい」として、理解と支援を呼びかけています。

～「けんご」の名前は護憲から～

稲津けんご氏の父・英五郎と母・とも子は1962年、憲政記念館で故・江田三郎氏の仲人のもと結婚し、長男を「憲法を護る」の想いを込めて「憲護(けんご)」と名付けました。

稲津氏はその想いをしっかりと受け、規則・条例に基づく議会政治と平和、人権などの憲法の理念を地域で実践していきたいと強く思っています。



3つの政策

ズバリ!!

稲津けんご氏に聞く

稲津けんご氏は、平成27年4月の府中市議会議員選挙に向けて「3つの政策」を掲げています。今回は、稲津氏本人に「3つの政策」について伺いました。

果たして「3つの政策」とは？そして、そこにかける想いとは？(インタビュー：稲津けんご後援会スタッフ)

① どの世代も健康で、いきいきと暮らせる府中市に

一 いよいよ、4年ぶりに市議選に挑戦されますね。

稲津：はい。2012年から民間で働きながら、父の介護や地域活動などを行ってきました。そこで、訪問診療や終末期ケアを市で充実させる必要があると痛感しました。まだまだ不足している特養ホームなどといった高齢者施設も増設する必要があります。

一 なるほど、それが1つ目の政策「福祉・健康」ですね。

稲津：それらに加え、都内自治体でも実施されている市内飲食店の禁煙化も入っています。健康に向けた行政と民間の連携もとりながら、どの世代も健康で、いきいきと暮らせる府中市を目指します。



② 災害に負けない府中市に

一 続いて、2番目の政策に「災害対策」とあります。

稲津：民間で働いていた時に、岩手県釜石市で緊急支援活動を行いました。その経験から府中市を見ると、築年数が古い住宅や道の狭い場所、電線が多く張り出している地域などに危機感を覚えます。

住宅の耐震補強を促進し、広域避難場所や通路の整備も行います。

一 「万が一」が起きてからでは遅いですね。

稲津：そうです。それに、実際に起きた場合のフォローも考える必要があります。必要な物資や支援が全体に行き届く体制整備や被災者の心のケアも大切です。災害に負けない府中市を築き上げたいですね。

③ ベテラン世代と共に子育てしやすい府中市に

一 3番目の政策「子育て支援」は、どのようにお考えでしょうか。

稲津：府中市でも「待機児童」が多い現状があります。保育施設の定員・施設増を図り、待機児童数を削減します。そのためには、在宅保育や保育ママの公的補助を提案します。

一 子どもを育てる親に向けての対策はいかがでしょうか。

稲津：現代は夫婦共働きというケースが増えていきます。そこで、母親の就業と父親の育児参加支援も図ります。人生のベテラン世代と共に手を取り合って、子育てしやすい府中市を目指します。



「福祉・健康」「災害対策」「子育て支援」の3本柱

一 福祉や健康、災害対策に子育て支援。どの世代にとっても重要な課題と言えそうですね。

稲津：もちろん、これら以外にも取り組みたい課題はあります。しかし、これらは「府中市」の今後において、とても重要なものです。市の運営に欠かせない3本柱と言って良いでしょう。まずは、どの世代も安心して暮らし続けていける府中市を目指します。

一 実際に、市民の皆様からも、これらの3本柱を求める声が増えていきますか。

稲津：お陰様で、ご声援と共に、これらの要望もいただいています。やはり、市民の皆様もそのように考えていらっしゃる、中には具体的な提案をされる方もあります。これらの声を市政に反映させるのも議員の役目です。4月の市議選への励みとなりますし、これからもご声援をいただければ何よりです。

一 今後の活躍を願っています。お忙しい中、ありがとうございます。

稲津：こちらこそ、ありがとうございました。